

## ■ 概況

11/18～11/24のNYMEX・WTI先物市場は、76.10～79.01ドルの範囲で推移した。

感謝祭で休業後の26日は、大幅に続落した。1月限の終値は、前営業日の24日と比べて10.24ドル安の68.15ドルで取引を終えた。南アフリカで新型コロナウイルスの新たな変異種が見つかり、世界景気や原油需要への影響が懸念された。一時は67.40ドルと、9月上旬以来の安値を付けた。同日までの1週間の国内石油掘削リグ稼働数は前週比6基増の467基となった。

週明け29日は、3営業日ぶりに反発。1月限の終値は、前週末比1.80ドル高の69.95ドルで終えた。新型コロナウイルスの変異型「オミクロン型」への警戒感から前週末に13%下げた反動で、押し目買いが優勢となった。

30日は、大幅に反落した。1月限の終値は、前日比3.77ドル安の66.18ドル。新型コロナウイルスの変異型「オミクロン型」に対して既存のワクチンや治療薬の効果が薄いと報道や発表が相次いだ。感染拡大で世界経済の回復が遅れば、原油需要が細るとの見方から売りが広がった。

12月1日は、続落し、1月限の終値は、前日比0.61ドル安の65.57ドルで取引を終えた。米カリフォルニア州で新型コロナウイルスの変異型「オミクロン型」の感染者が見つかり、米国で感染が広がれば原油需要の停滞を招くとの懸念が売りを誘った。

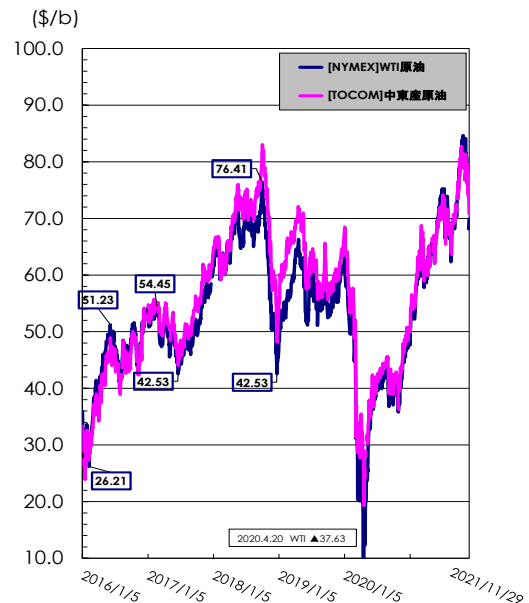
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（1月渡し）は、11月18日～11月24日の間、77.50～81.80ドルの範囲で推移した。11月25日81.70ドル、26日79.20ドル、29日74.60ドル、30日71.60ドル、12月1日69.00ドルで推移した。

為替は11月18日～11月24日の間、114.10～115.21円の範囲で推移した。11月25日115.33円、26日114.93円、29日113.77円、30日113.77円、12月1日113.26円で推移した。

財務省が11月26日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、11月上旬の原油輸入平均CIF価格は、58,058円/klで、前旬比2,957円高、ドル建て80.92ドルで前旬比3.32ドル高、為替レートは1ドル/114.07円。

そのような中で、11月29日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油は同0.1円の値下がり、灯油は2円の値上がり（18%ベース）であった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は2週振りの値上がりとなった。この週（11/23～29）の原油コストは値下がりしており、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比1.5円の値下げとなった模様。

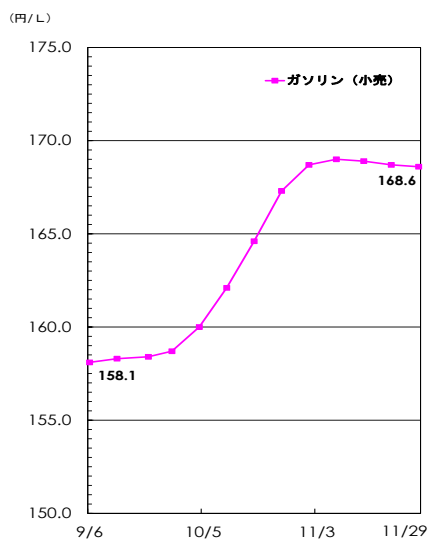
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/21～11/27	3,021 ▲99	▲
	トッパー稼働率 (%)	"	78.5 ▲2.6	▲
	原油在庫量 (千kl)	11/27	9,024 ▼-630	▼
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	11/29	70.83 ▼-3.32	▲24.1
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	11/29	69.95 ▼-6.80	▲24.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月上旬	80.92 ▲3.32	▲38.61
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	58,058 ▲2,957	▲30,201
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	114.07 ▼-1.19	▼-9.39
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/29	114.77 ▲0.33	▼-9.88



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/21 ~ 11/27	942 ▲ 11	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	779 ▼ -42	▲ -	
	輸出	"	268 ▲ 238	▲ -	
	在庫	11/27	1,488 ▼ -105	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/23 ~ 11/29	75.4 ▼ -0.6	▲ 32.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/23 ~ 11/29	69.9 ▼ -3.1	▲ 27.9
		(TOCOM/中部)	11/29	71.2 ▼ -3.0	▲ 27.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/29	168.6 ▼ -0.1	▲ 35.2	

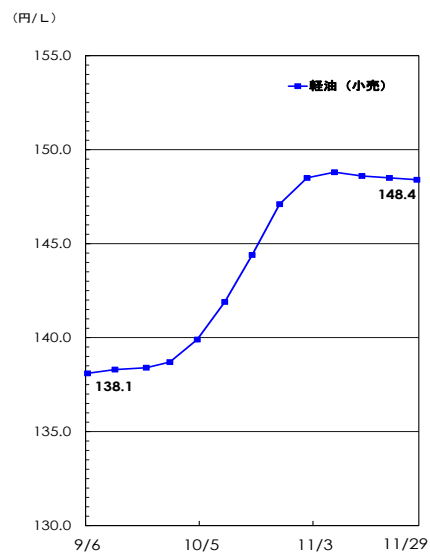
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

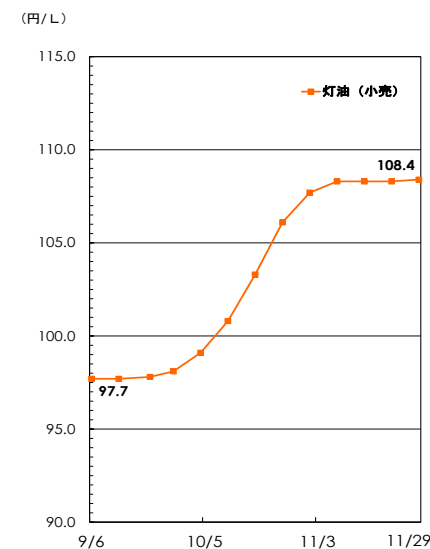
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/21 ~ 11/27	699 ▼ -34	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	585 ▼ -30	▲ -	
	輸出	"	95 ▲ 45	▲ -	
	在庫	11/27	1,345 ▲ 20	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/23 ~ 11/29	75.8 ▼ -1.2	▲ 29.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/23 ~ 11/29	77.9 ▼ -1.0	▲ 29.1
		(TOCOM/中部)	11/29	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/29	148.4 ▼ -0.1	▲ 34.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/21 ~ 11/27	291 ▲ 97	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	192 ▼ -92	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -24	▼ -	
	在庫	11/27	2,816 ▲ 99	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/23 ~ 11/29	75.6 ▼ -1.2	▲ 30.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/23 ~ 11/29	72.3 ▼ -1.6	▲ 26.9
		(TOCOM/中部)	11/29	71.0 ▼ -3.0	▲ 24.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/29	108.4 ▲ 0.1	▲ 29.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

12月1日のNYMEX先物原油は、安値拾いの買いが先行したものの、米エネルギー情報局(EIA)在庫週報や新型コロナウイルス感染拡大懸念が重しとなり、続落した。1月限の終値は、前日比0.61ドル安の65.57ドルと、前日に続き約3か月ぶりの安値水準となった。2月限は0.48ドル安の65.37ドル。EIAによると、11月26日までの1週間の原油在庫は前週比90万バレル減と、減少幅は市場予想を下回った。ガソリン在庫は400万バレル増、ディスティレート(留出油)在庫は220万バレル増といずれも予想を上回る積み増しとなった。加えて、取引終盤には米国内で初のオミクロン株感染者確認が伝わり、経

済活動の停滞によるエネルギー需要の減速懸念が再燃した。

EIAによると、11月27日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.5セント値下がりの1ガロン3.380ドル(102.4円/ℓ)、ディーゼルは同0.4セント値下がりの3.720ドル(112.7円/ℓ)となった。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは2週連続の値下がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年11月21日～11月27日に休止したトッパー能力は32.6万バレル/日で、前週に対して19.0万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は302.1万klと、前週に比べ9.9万kl増加。前年に対しては18.1万klの増加。トッパー稼働率は78.5%と前週に対して2.6ポイントの増加、前年に対しては4.7ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が増産、その他の油種で減産となった。

ガソリン/1.2%増、ジェット/33.0%減、灯油/50.3%増、軽油/4.6%減、A重油/2.0%減、C重油/34.9%減。今週のC重油の輸入は3.0万kl(前週比0.6万kl減)。軽油の輸出は9.5万kl(前週比4.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェットが増加し、その他の油種で減少した。

前年比では灯油、A重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンの出荷は77.9万kl(対前週5.1%減)と4週振りで減少した。

ジェット11.1万kl(対前週243.4%増)、灯油19.2万kl(対前週32.5%減)、軽油58.5万kl(対前週5.0%減)、A重油16.7万kl(対前週28.5%減)、C重油20.5万kl(対前週26.6%減)。

(単位:千kl)

	今週 (11/21 ~ 11/27)	前週 (11/14 ~ 11/20)	前週比	
ガソリン	779	821	▼ -42	(-5%)
ジェット燃料	111	32	▲ 79	(247%)
灯油	192	284	▼ -92	(-32%)
軽油	585	615	▼ -30	(-5%)
A重油	167	233	▼ -66	(-28%)
C重油	205	279	▼ -74	(-27%)
合計	2,039	2,264	▼ -225	(-10%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月27日時点の在庫は、灯油、軽油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

前年に対しては全ての油種で減少となった。

ガソリンは148.8万kl、前週差10.5万kl減。前年に対しては50.5万kl少ない。

灯油は281.6万kl、前週差9.9万kl増。前年に対しては10.8万kl少ない。

軽油は134.5万kl、前週差2.0万kl増。前年に対しては27.8万kl少ない。

A重油は73.1万kl、前週差2.3万kl増。前年に対しては4.9万kl少ない。

C重油は172.5万kl、前週差4.5万kl減。前年に対しては11.5万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (11/27)	前週 (11/20)	前週比	
ガソリン	1,488	1,593	▼ -105	(-7%)
ジェット燃料	804	840	▼ -36	(-4%)
灯油	2,816	2,717	▲ 99	(4%)
軽油	1,345	1,325	▲ 20	(2%)
A重油	731	708	▲ 23	(3%)
C重油	1,725	1,770	▼ -45	(-3%)
合計	8,909	8,953	▼ -44	(-0.5%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月23日～29日の指標原油価格は前週比で値下がりし、為替レートは円安であったが、円建ての原油コストは値下がりしたものと見られる。

次週(12/2～8)の大手元売卸価格は、産油国国営石油会社の11月積み原油の引き下げもあり、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比1.5円の値下げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月23日～11月29日の製品スポット市況は、11月16日～11月22日平均と比べ、全油種・全取引で、値下がりした。

直近週(11/23～11/29)の陸上スポット価格平均値は、前週(11/16～11/22)比で、ガソリンは0.6円の値下がり、灯油は1.2円の値下がり、軽油は1.2円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(11/23～11/29)に、前週(11/16～11/22)比で、ガソリンは0.9円の値下がり、灯油は0.9円の値下がり、軽油は1.6円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは3.1円の値下がり、灯油は1.6円の値下がり、軽油は1.0円の値下がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (11/23～11/29)	前週 (11/16～11/22)	前週比
レギュラー	75.4	76.0	▼ -0.6
灯油	75.6	76.8	▼ -1.2
軽油	75.8	77.0	▼ -1.2

(TOCOM) (単位: 円/%)

期近物/終値 [平均]	今週 (11/23～11/29)	前週 (11/16～11/22)	前週比
レギュラー	69.9	73.0	▼ -3.1
灯油	72.3	73.9	▼ -1.6
軽油	77.9	78.9	▼ -1.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/23～11/29実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.6	▼ -3.1	▼ -1.8
灯油	▼ -1.2	▼ -1.6	▼ -1.4
軽油	▼ -1.2	▼ -1.0	▼ -1.1
A重油	▼ -1.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

11月29日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の168.6円、軽油は同0.1円安の148.4円、灯油は18%ベースで2円高の1,952円(1%ベースでは同+0.1円の108.4円)。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は2週振りの値上がりとなった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは19都県で、横ばいは4府県、値下がり24道府県であった。全国最安値は162.7円の埼玉県、その次は、163.5円の徳島県であった。他方、最高値は177.0円の長崎県だった。最も値上がりしたのは福岡県(前週比0.7円高)で、横ばいは高知県他で、最も値下がりしたのは群馬県(同1.2円安)だった。

今週(11/23～29)の指標原油価格は値下がりし、為替レートは円安であったが、円建ての原油コストは値下がりしたものと見られる。次週(12/2～8)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.5円の値下げとなった模様。次回調査時(12/6)のガソリンの小売価格は、これまでの卸値の転嫁状況を踏まえると値下がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/29)	前週 (11/22)	前週比	直近高値
レギュラー	168.6	168.7	▼ -0.1	08/8/4 185.1
灯油	108.4	108.3	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	148.4	148.5	▼ -0.1	08/8/4 167.4

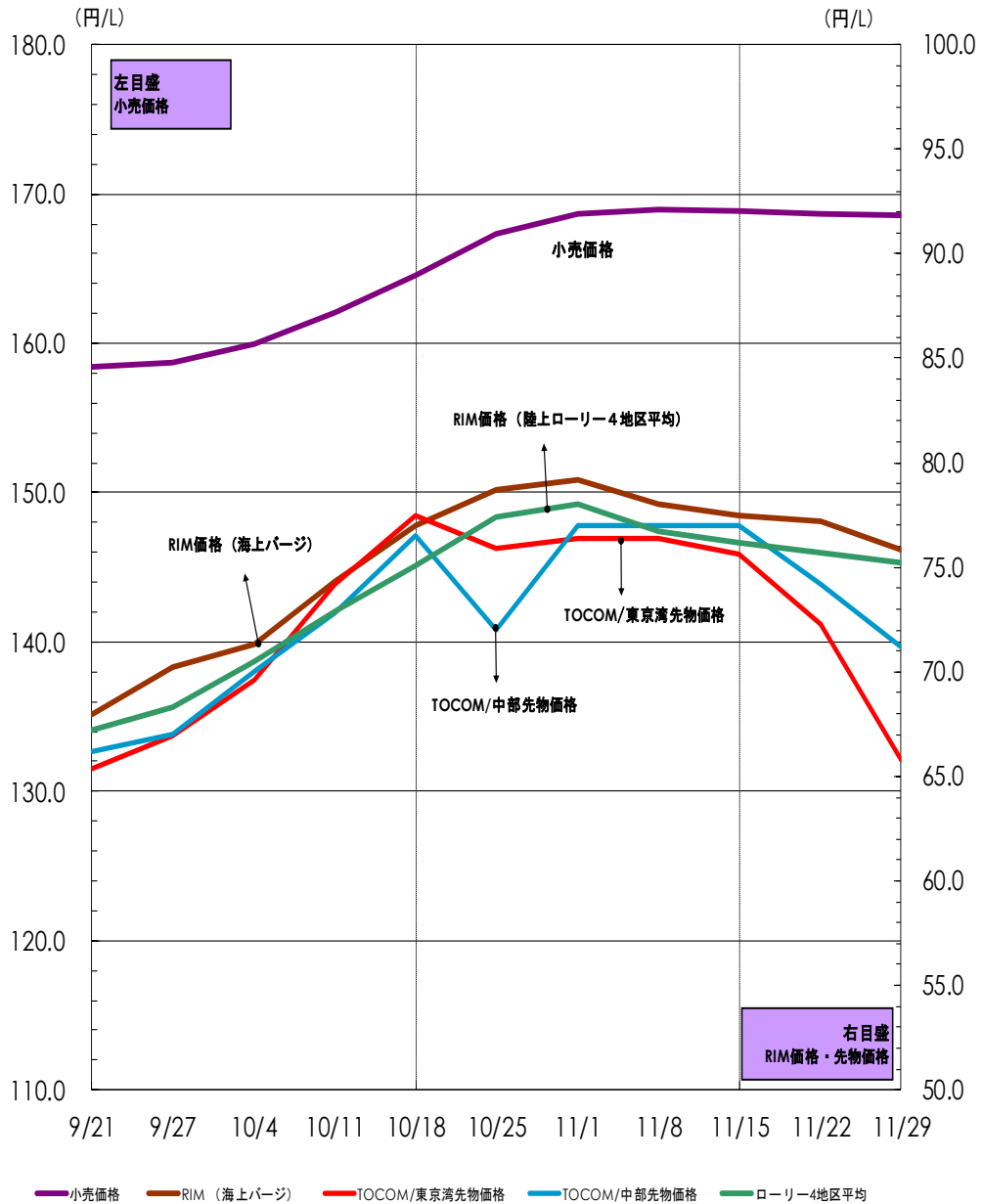
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2021/9/21 ~ 2021/11/29)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回 (2021第35号) の公表は、12/10 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和3年3月末現在) は、8月25日 (水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPIに掲載)。